

透析患者と非透析患者における経皮的椎体形成術の比較検討

研究協力をお願い

当院では、透析患者と非透析患者における脊椎圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術の効果や合併症に関する研究を行っております。調査の意義や目的、研究方法は以下の通りです。

「オプトアウト」という手法により、患者さん皆様から直接の御同意はいただきず、このお知らせにより御同意を頂いたものとして扱われます。患者さん皆様方には研究内容をご理解いただき、本研究へご協力頂きますようお願い申し上げます。

もしこの研究への参加をご希望されない場合、また途中で研究参加を取りやめる場合、その他この研究に関する問い合わせは、下記の連絡先へお問い合わせ下さい。

1, 研究の概要

研究対象者：脊椎圧迫骨折を発症し、当院で経皮的椎体形成術を受けた方

2, 研究の意義及び目的

近年、高齢化や骨質不良、骨粗鬆症等の様々な要因により、脊椎圧迫骨折を発症する割合が増加しています。疼痛が軽微な場合や椎体の圧潰変化が強くない場合はコルセットを用いた保存加療が中心となりますが、保存加療では椎体が圧潰した状態で骨癒合するために亀背となるデメリットに加え、骨癒合遅延による偽関節のリスクや圧潰した椎体が脊柱管内に突出し脊髄損傷を引き起こすリスクもあり、近年は低侵襲の経皮的椎体形成術がより積極的に考慮されつつあります。今回透析患者と非透析患者を対象として、両方で安全に経皮的椎体形成術が施行出来るかどうか比較検討する事を目的としております。

3, 研究方法

手術を受けた患者さんに対し、特別な侵襲や介入がない中で 1 年間観察し、手術の効果や合併症などを評価します。

4, 個人情報について

この研究に当たり、個人が特定できるような情報は使用されず、また研究発表時にも個人情報は使用されません。

5, 問い合わせ先

医療法人社団明生会理事長 田畑 祐輔

連絡先：043-224-8201 (医療法人社団明生会 三橋明生病院)